

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	市有林造林保育費				
担 当 課 係 名	田沢湖総合窓口 課	振興班 係	作成者	伊藤 聡	
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	特色ある資源を生かした産業創造のまち			総合計画の ページ
	基本計画	森林の整備と林業の振興			
	主要施策	森林施業の促進			66
予 算 費 目	一般 会計	6 款 農林水産業費	2 項 林業費	6 目 林業振興費	
事 業 期 間	平成 19 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☒ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	第51回秋田県植樹祭会場の景観保全
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	景観保全を図るため下刈り等を実施
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	造林地内の下刈りを実施することにより景観保全に努め、来場者へ森林に対する意識の高揚を図る

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	環境保全対象面積	目標	ha		3.5	3.5	
			実績	ha		3.5	3.5	
			達成度	%		100.0%	100.0%	
	成果指標	環境保全実施面積	目標	ha		3.5	3.5	
			実績	ha		3.5	3.5	
			達成度	%		100.0%	100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)					268	263	
	人 件 費 (B)		—			404	396	
	職 員 数		—			0.05	0.05	
	職 員 平 均 人 件 費		—			8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト					672	659	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源					672	659
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—			192,000	188,286	
	市民1人当たりのコスト(円)		—			21	21	

【事務事業の今までの成果】

適期の作業を実施し、良好な環境保全を行うように努めている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	特になし
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	小先達砂防公園と一体となった管理

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	景観保全を考慮した場合継続が必要と考える
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）
担当の考えとしては、市有林としての管理というよりは隣接公園との一体化により来場する地域住民、観光客のニーズに応えるべき管理の仕方を検討していきたい。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	より効率的に事業を行うため、近隣施設との一体管理化等の検討を進める必要があると考えます。

